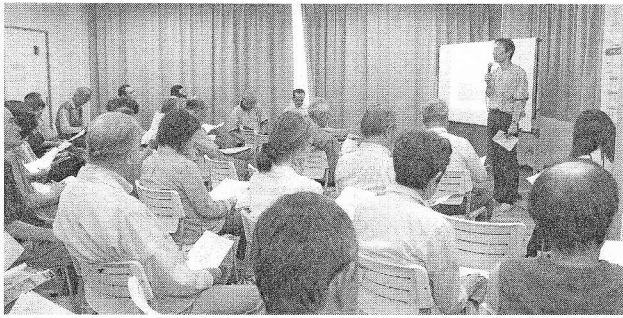


「計画は初耳」「まちを分断」

外環の2 三鷹で住民が集会

「地上道路『外環の2』をどうする！ 武蔵野訴訟



「外環の2」について語り合った住民のつどい 5日、三鷹市

に学ぶ」が5日、三鷹市の三鷹台地区公会堂で開かれました。外環予定地・住民の会と市民による外環道問題連絡会・三鷹が主催したもので、会場いっぱい約50人が参加しました。

「外環の2」武蔵野訴訟の坂勇一郎弁護士が、道路計画の経緯と訴訟の歩みを報告。「まちを守っていくことが基本にある裁判。行政が住民の方を向いていないもつで、裁判所が判断を下すべきだと訴えてきた」と、裁判の持つ意義を明らかにしました。

ついで「外環の2」訴訟を支援する会の松川昭一郎世話人代表が、弁護士と協力しながら住民アンケート

や街並みの写真集などをくり裁判所に提出してきた活動を報告しました。

このあと参加者一人一人が発言。「今年5月に越してきたが、このような道路計画があることは初耳で驚

いた」「土地は地球の芯まで私のもんと思っていたが、(外環本線が通る) 40分は深はダメになるとは」「半年前に引越してきて、今日初めて参加したが、逼迫した問題になっていることが分かった。高齢化対策といいながら、まちが道路で分断されるといのはどういふことか」など、怒りと不安の声が相次ぎました。